

会 議 録

会議名	平成25年度第2回市史編さん委員会会議
事務局	教育委員会生涯学習課
開催日時	平成25年10月21日(月) 午前10時～11時15分
開催場所	802会議室
出席者	委員 出席(根岸委員・牛米委員・中嶋委員・小野委員・井上委員・上原委員・津幡委員)
	欠席(林委員)
	事務局 天野課長・倉澤主任・伊藤主事
傍聴の可否	◎可・不可・一部可
	傍聴者：なし
不可の理由	

会 議 次 第

第3期市史編さん委員の委嘱について

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 市長あいさつ
- (3) 市史編さん委員長互選

議 事

- 1 市史編さん副委員長互選
- 2 報 告
 - (1) 近代部会の活動について
 - (2) 現代部会の活動について
- 3 議 題
 - (1) 今後の事業計画について
 - (2) その他
- 4 第3回市史編さん委員会の日程について
平成26年2月 日() 会議室

【配布資料】

- (1) 第3期市史編さん委員名簿
- (2) 小金井市史編さん大綱
- (3) 小金井市史編さん年次計画
- (4) 「小金井市史資料編近代」資料リスト(案)
- (5) 現代部会の作業状況

会 議 内 容

(生涯学習課長天野) 第3期市史編さん委員会の発足にあたり、委員長が決まるまで会議を進行させていただく。

◎委嘱状の交付

別添第3期小金井市史編さん委員名簿(任期:平成25年8月20日から平成28年8月19日まで)のとおり稲葉市長から委嘱状を交付した。

◎市長あいさつ(要旨)

お忙しいところ市史編さん委員会にご出席いただきありがとうございます。今後3年間、市史編さんに向けて皆さんのお力添えをお願いしたい。根岸・小野・林・井上委員については再任、新委員の牛米・中嶋委員についてはこれまで編集委員・調査員としてご協力をいただいていたと聞いている。皆さんには小金井市史刊行に向けて引き続きよろしくをお願いしたい。小金井市史については、市制施行50周年を期して平成20年度より着手、市政施行60周年の平成30年度に通史編の刊行を目指して取り組んでいただいている。今年度は「近代資料編」の刊行が予定されているが、今後とも、小金井市史編さん大綱と年次計画に基づいて各時代の資料編と通史編の刊行がされていくものと考えている。今後とも皆さんのご協力をお願いしたい。

◎市史編さん委員長互選

根岸茂夫委員が委員長に再選された。

◎根岸委員長挨拶

前回から引き続き委員長に選任されたが、皆様のご協力がなければ役割が果たせないなので、よろしくをお願いしたい。

議 事 (以下、根岸委員長による議事進行)

1 市史編さん副委員長互選

小野武敏委員が副委員長に選出された

(根岸委員長) これまで、いろいろな自治体の市史編さんに関わってきたが、何時も考えていることは、第一に主人公は、地域の先人達、地域に住んだ人々であるということ。第二に自治体の歴史であること。主に江戸時代を担当してきたが、この地域に地方自治の伝統がどのように育まれていながら、小金井という地域がどのようにできてきたかを考えたい。小金井地域の場合は、先ず野川沿いに小金井・貫井といった地域が開発され、17世紀から18世紀(元禄時から享保時代)に台地の開発が始まり、武蔵野の原が畑に変わってくることから、地域の変貌が始まり、それが近代になってから都市化となり、地域の景観が変わってくること

を考えていきたい。また新しい史料も発掘していきたい。小金井市史（誌）は長い伝統があり、これまでの成果を総合するようなかたちで、この地域の歴史や文化を改めて認識させるような新たな市史をつくっていきたいので、皆様のご協力をお願いしたい。

2 報 告

(1) 近代部会の活動について（牛米編集委員）

資料として『小金井市史 資料編 近代』資料リスト（案）を配布した。近代部会は、今年度末までに資料集を発刊することが至上命題である。このリストは9月末までのもので、目次を含め作業用に作成した。

明治期については、地方自治制度の変遷に合わせたような時代区分（章立て）になっている。節は概ね行政・産業・教育・文化（社会）の4節で、その中でも特徴的なものは独立した節を立てた。現在、章・節を含め資料の選択が適切かどうか最終的な編集作業を進めており、今月末までに原稿を確定する。

明治期になると、近代国家の「平等」が出てくる、小金井の場合だと、古村（本村）と新田の二つの地域があるが、明治期に同じような形（平等）の村となっていくイメージを持っている。維新时期に起きた門訴事件は、新田の社倉負担を本村並にするとすることに反対したものだが、別の観点からみると、近代になって平等の社会になっていく過程だと考えている。日清戦争（明治28年）後、小金井の村政が大きく変わっていく。また、関東大震災（大正11年）の後に武蔵小金井駅ができ、東京市内から人々に移り住んでくるようなかたちで都市化が始まる。ただ、昭和期の行政資料が少なく、新聞記事で埋めている。事務報告書も昭和初年のものがない。全体的に産業関係の資料が少なく、担当者は苦労しているが、今月末を目途に資料選択作業を進めている。およそ800～900頁前後の見込み、これに解題を付して、今年度中に発行したい。

（委員長）近代部会からの報告に対して何か質問はあるか。

（井上委員）小金井の場合、自由民権運動は不活発だったのか。

（牛米委員）自由民権運動は、多摩全域ではなく小金井地域にとってどうだったのを考えていく必要がある。小金井地域に固有の自由民権資料はあまりないので、資料集に入っていない。通史編の中では触れることになる。特に大久保善左衛門（常吉）については記述する。小金井地域は、日清戦争後に近代的な村として成り立つイメージがある。それまでは、旧村の代表者が並立していて、政治的にも必ずしも一枚岩ではなかったが、自由民権運動や三多摩移管といった政治的混乱を経ながらこの時期に村長を中心とした村政が成立してくるイメージを持っており、自由民権運動も視野に入れている。

（根岸委員長）この（武蔵野）地域の自由民権運動資料は、三鷹市の吉野家文書の中に相当ある。野崎村の吉野泰三は、神奈川県議会議長を務めた人で、自由民権運動の中心人物で、自由党と対立して三回程国政選挙に出たが、落選している。

壮士と呼ばれる過激な選挙運動員達を批判したため、自由党から排除された。政府寄りの政党から出馬するが、激しい選挙戦の上、落選した。吉野は三多摩東京府移管への中心人物であり、その後、北多摩正義派とか北多摩産業会といった商工業者の地域振興を考えた。品川弥二郎の国民協会という政府寄りの政党に入るが、この政党が地域のことを考えないことに憤慨しながら明治 29 年に死んでいく人物。三鷹市では顕彰運動がされている。吉野家文書の整理にあったが、その中に何点か大久保善左衛門あての手紙があった記憶がある。

(小野副委員) 小金井で活躍した大久保善左衛門や渋谷安斎の資料も載せるべきではないか。

(根岸委員長) 吉野の選挙運動の幹部に近藤勇五郎(近藤勇の養子)という人物がおり、天然理心流の師範として吉野の警護隊長を務めた。また、自ら選挙の応援演説をしている。吉野は近藤勇五郎を援助し、多摩地域に天然理心流の普及に力を尽くした。深大寺に奉納した額に門弟の名がのせられており、小金井の人の名が載っていないか、調査する必要がある。

吉野家文書は三鷹市教育委員会にマイクロフィルムがあり、目録と併せて見ることができる。三鷹市のほか、東京都公文書館・日野市教育委員会・町田市教育委員会が共同でマイクロフィルムを作成しており、閲覧が可能。

(井上委員) 大正 6 年に摸範村長が逝くと言う記事があるが、小金井が摸範村となったという事実はあるか。

(牛米委員) 東京府から表彰されたと思うが、明治期の後半に村長をした人(大沢百太郎)を表彰した記事である。日清戦後の村政を担った村長の死亡記事として載せた。

(事務局・伊藤) 「小金井学園」の資料について、牛米委員から報告願いたい。

(牛米委員) 小金井学園は、昭和 5 年から昭和 20 年まで小金井村に存在した知的障害児童の治療・教育施設で、創立者の一人である奥田三郎の資料を札幌市在住の研究者が所有していることがわかった。こういう機会でなければ、見る事が難しいので、交渉してファイル 10 冊を借りることができた。取り扱いが難しいが、資料集には、施設の概要の分かる資料はのせたい。複写の許可は得ており、通史編でも使えるものと考えている。

(中嶋委員) 近代編の時代区分については、昭和 12 年の町制施行までだが、それまでは農村というイメージが強い、昭和期は新聞記事が多いが、現代編も同様である。

(牛込委員) 昭和 5 年に出来た「昭午会」は、関東大震災後に東京方面から小金井に移り住んだ人々と地元の人とが懇親を深め、政治抜きで趣味を通じて親睦を図ろうとする団体である。職業・名前・住所・趣味までがわかる名簿がある。移住者の全体像が分かる資料は、多摩地域にはあまりないので載せたい。

(根岸委員長) 次に現代部会から報告をお願いします。

(中嶋委員) 現代部会の現状は、今年の 4 月に松平委員が病気で倒れ、以来、実質

的な部会長として代行してきた。現在、調査員 4 名で運営している。今年になってようやくメンバーが固定した。ほぼ毎月 1 回部会を開催している。調査員は時代別に担当しているが、時代を超え特任する場合もある。

これまでの調査の内容は、収集済みの資料の検討、国立公文書館等の資料調査、東京都公文書館資料調査、市報こがねい調査、新聞調査（毎日新聞・小金井新聞）、小金井新聞は地域の様子が分かる記事が多く、重要視している。市立図書館で所蔵する「小金井市に関する新聞記事」から資料の抽出を行っている。公民館所蔵資料調査、三多摩問題研究会の矢間資料の調査及び聞き取りを行った。他に小金井議会会議録、新生活運動関係資料、滄浪泉園保存運動関係資料の調査を行った。

今後の活動予定としては、東京都公文書館文書の継続調査、立教大学「市民活動資料センター」所蔵資料の調査等。特に、小金井市保管の公文書の調査が重要と考えている。職員組合機関紙の調査、桜町病院等民間施設の調査や市長等行政経験者の聞き取りや資料調査。市議会会議録、小金井市に係る文献調査等、現代編は資料が膨大で特に議会議録は読み通せるものではない、有る程度新聞記事でなにがあったのか（問題）を確認し、会議録や公文書にあたる方法をとっている。

『現代資料編』の構成については、コンセプトとして「都市化」と「市民参加」の二つの問題を出したい。町制施行（昭和 12 年）前後から具体的に都市化が始まると考えている。高度成長期に徹底的に「都市化」して行くが、このスプロール的な都市開発に対して弊害をある程度是正するという事で再開発が始まると考えている。もう一つは「市民参加」で、占領期の民主化問題と、1960 年代末から 1970 年代にかけての市民運動と革新市政の問題ある。そこで、市民参加が叫ばれ、革新市政が終わった後も理念として受け継がれていると思う。

構成案（章立て）としては、五章の時代区分を考えている。第一章は戦時体制化に於ける都市化の開始ということで、軍需工場や陸軍技術研究所等と戦時体制の問題を考える。第二章は、占領期と民主化の中の小金井（町村合併の時代まで）、第三章は高度成長期の無秩序な都市化と市制施行の問題、第四章は都市化を是正するかたちで始まった市民参加と福祉政策の提唱、革新市制の誕生。第五章は革新市政の問題点を考え直す観点からはじまった行財政改革と都市再開発問題。現在の市政は、大久保市政時代を引き継いだかたちで行われており、現代編の終期は、2000 年前後でよいと考えている。

今後の問題は、2013 年にやっと固定した調査員がそろったこと。小金井市の公文書調査がまだ終わっていないことから、資料調査が行き届いていない。刊行計画では、26 年度末になっている。そうすると、今年度末には掲載する資料目録を出す必要があるが、間に合うかどうか危惧している。調査のための時間をいただきたい。

（根岸委員長）今の報告に意見・質問があるか。

（上原委員）戦前に現在の都立小金井公園の中に光華殿があり、皇室との関わりが

あったと思うが、触れないのか。

(中嶋委員) 戦後、小金井公園に今上天皇が避難されたという事実がある。浴恩館も皇室ゆかりの施設であり、そういうことも資料に入れていく。全体のコンセプトの中で触れることにしたい。

(根岸委員長) 調査員を増員することは考えているか。

(中嶋委員) 調査員の増員は考えていない。人員増より調査のための時間をいただきたい。

3 今後の事業計画について

(根岸委員長) 今後の事業計画につて、事務局から説明願いたい。

(事務局・伊藤) 資料の小金井市史編さん年次計画をごらんいただきたい。25年度(市制施行55周年)に「近代資料編」、26年度「現代資料編」、27年度「近世資料編」、28年度「考古資料編」というように毎年1冊ずつ刊行し、29年度に「通史編下」、30年度(市制施行60周年)に「通史編上」を刊行し、編さん事業を終了する計画となっている。

「近代資料編」は予定どおり25年度末までに刊行することは可能と考えている。「現代資料編」は、中嶋委員から26年度の刊行は無理との発言があったが、1年延伸でよいか。「近世資料編」は27年度末刊行が可能か。

(中嶋委員) 現代部会は、今年度に入ってようやく体制が整ったばかりなので、26年度の活動と27年度の発行をそれぞれ一年の延伸をお願いしたい。

(根岸委員長) 近世部会は、素案ができていますので25年度中に立ち上げ、来年度から編集活動をはじめたい。

(事務局) 考古部会は26年度発足の計画だが、部会の立ち上げについてまだ目途がたっていない。

(根岸委員長) 先ず、現代部会の活動と資料編の刊行を1年延ばすことについてはどうか。27年度に現代資料編・近世資料編2冊を刊行するのは、事務局体制が厳しくはないか。

(事務局・伊藤) 原稿がまとまれば、年に2冊の刊行も可能だが、事業計画を変更すると、予算の組み替えがあり、当局への説明が必要となる。なお、資料編を出すまでには、体制が整ってから3年はかかっているため、現代部会の1年延伸はやむを得ないことと思う。事業の最終は、市政施行60周年の平成30年であり、これは動かせない。

(根岸委員長) 最後に通史編2冊の刊行は、いかにも難しくはないか。

(牛米委員) 通史編は1冊にまとめてもよいのではないか。

(根岸委員長) 通史編を1冊とし、現代編・近世編・考古編の刊行をそれぞれ一年伸ばしたらどうか。通史編の他に、簡易な図録編等の発行は考えているか。

(事務局) 現在、この計画には入っていない。

(根岸委員) 以前、埼玉県のある市で、簡易版の市史をつくって、全戸に配布した

ことがあった。通史編は、一般市民には難しいといった印象があるので、ビジュアルな市史も必要ではないか。

(事務局) 市制施行 30 周年に出した「写真でみるわたくしたちのまち小金井」が今でも需用があるということは、市民のニーズにかなっていると思う。予算の問題もあるが、現在は電子データ入力により印刷コストが安くなっているのでビジュアルなものを検討する余地はある。

(根岸委員長) 資料編を 1 年に 1 冊ずつ、最後に通史編を 1 冊発刊することにすれば、編集し易くなるのでは。

(事務局・伊藤) 通史編を 1 冊とすれば、利用する市民にとってもコンパクトで読みやすく、事務局にとっても編集作業が楽になる。また、装丁も考える必要がある。

(根岸委員長) 通史が 1000 頁を超えると読みづらいものになる。

(事務局・伊藤) 今の『小金井市誌』歴史編は 500 頁程度。これより増えると思うが、1000 頁を超えなければよい。

(根岸委員長) 「近代資料編」については、予定どおり今年度発行すること。現代資料編・近世資料編・考古資料編は 1 年延ばすこと。通史は 1 冊とすること。1 冊で小金井市の歴史の全体がわかる方が市民にとっても便利で、事務局にとっても編集が楽ということからよいのではないか。執筆する方も、要点をまとめて書くので、歴史の流れが把握しやすいようになる。細かいことは資料編で解説をつけるのでよいのでは。通史編上巻は原始古代から近世まで(前近代)だが、小金井の場合、古代・中世の資料が少なく、周辺地域の事だけ書いても市のことが分からなくなる。また、近世については多く書くことはできるが、煩雑になってしまうということがある。1 冊にして要点をまとめた方がよい。

(事務局・伊藤) 小金井の原始時代は、ほとんど「考古資料編」で解説・記述するので、通史編での記述は少なくして、1 巻にまとめた方がよいと考える。

(牛米委員) 近代部会は、25 年度に「資料編」を発刊するが、その後、通史編を出す 29 年度まで空白になっている。執筆時まで今の調査員をどう維持するかが問題、特に若い人が多いので就職等で抜けてしまう心配がある。執筆まで途切れず、1 か月に 1 度程度定期的集まって通史執筆のための活動を継続できるようにしていただけたら有難い。

(根岸委員) 例えば通史に入りきれない大部の資料があれば、市史編さん資料集として 1 冊・2 冊担当してもらい、それが通史の執筆につながるという方法は可能か。

(事務局・伊藤) これまで市史編さん資料集として、市保管文書や鈴木英男家文書・大久保家文書等の翻刻と活字化を行ってきた。残りのまとまった史料群は、梶野家文書ぐらいで、すでに翻刻を始めている。他市の事例のように事務報告書・会議録・新聞記事等を資料集としてまとめる方法もある。

(牛米委員) 近代部会では、事務報告書・会議録・新聞記事を本編に入れる方針で

編集しているので、今から方針を変更することは難しい。

(根岸委員長) 各部会が定期的に通史執筆のための会議を開き、研究会なり、資料の検討をやらないと資料集の編さんの成果が通史に反映されなくなる。部会を継続させる予算が必要。

(事務局・伊藤) どの位の予算措置をしたらよいか。

(牛米委員) 部会の会議はこれまでのように毎月1回程度の頻度でよいが、執筆のための資料調査も必要なので、調査活動費も併せて予算措置をしていただきたい。

(事務局・天野課長) その点は財政的な問題になるが、通史編を1冊にまとめ、コンパクトにするということからどの程度金額が減るのかという点を見ながら、全体の予算の枠内でどういう組み替えができるか検討させていただきたい。

(根岸委員長) 年次計画と予算措置の変更については、委員会の意見を参考に事務局で再検討していただくことでどうか。

4 第3回市史編さん委員会の日程について

平成26年2月17日(月)

802会議室

以上

